



## 通信 No, 8

### ～授業参観～

今回は、3年岡田先生（英語）の授業参観へ行きました。アポなしにもかかわらず、授業参観をさせてもらい、ありがとうございました！

今回は、授業の流れや内容について紹介したいと思います。

#### 【岡田先生】

#### 『パワポを使った、テンポの速い一問一答スタイル』

#### ★主な流れ

##### 一、ミニラボ

- ①ミニラボに載っている単語についてPCで範読を流し、復唱させる。（10分）
- ②ペアを作り、エイラボを交換、音読しあう

##### 二、教科書を開く。

- ①最初に教科書を開き、指示した部分を確認し閉じる
- ②スライドを見せながら、オールイングリッシュでしゃべる

※内容は今回扱う「関係代名詞」を使った文を掲示

- ③パワポを使ってポイントを解説
- ④教科書の例文を見て、復唱を行う。

##### 三、エイラボ

- ①エイラボを開かせ、問題を解かせる。（8分）
- ②できたここまでで答え合わせ。

##### 四、ノートの記入

- ①パワポに表示されている文をノートに記入する

#### 岡田先生が使っているパワポ

#### Today's point★

関係代名詞を使うと、前にある名詞に文の形で説明を加えることができる。

I met a man **who speaks three languages.**

→ I met **a man.**

**He** speaks three languages.

#### それ、いいね！ テンポの速さを成立させる難易度の設定

今回見た、岡田先生の授業はパワポを活用しながら、要点を話し、生徒に考えさせる部分を挙手性（一問一答）であてていました。また、比較的早いテンポの授業展開が行われ、一問一答の間延びを避けるため生徒へ問う問題の難易度は簡単な問題に設定されていました。（直前で教えたことを復唱させる、前時の内容、選択問題など）

また、ポジティブ行動支援として答えた生徒に対して、必ず1回のほめ言葉「すばらしい」「よくその言葉がでてきたね」などの声掛けを行っていました。

#### 注意！ テンポが速く、パワポゆえの過ぎ去り

5月に行われた、石井先生の校内研修を覚えていらっしゃるでしょうか。そこで、石井先生は「パワポの弱点として、再現性が高く生徒がわかった気になることは多いが、次に進むため残すことはできない。」と話していました。つまり、視覚的にもわかりやすく、教師のイメージを生徒側に見える化することはでき、その場では理解できるが、過程としては残らずに次に行ってしまうためスライドをもとに戻す必要がある。ということです。

#### これはどう？ ICTと黒板の両立化

現在、西中では黒板の中心部分にスクリーンを配置しているため、左右の黒板が空いている状態が多い。その空いている部分に『書き残すべき内容』を記したらしいかもしれない。たとえば、今回の岡田先生は上記のスライド（Today's point）を複数回、発言していた。そういう授業内で何回も扱う内容を黒板に書き残し、ICTの黒板の両立化を図ってみると良いかもしれません！